



# 七色のかがやき

長崎市立虹が丘小学校 学校便りNo.2

令和7年 5月 1日(木)

編集・発行責任者 校長 池田敏典

E-mail e52@nagasaki-city.ed.jp

G-mail nijigaoka@gmail.com

## 夏の情趣から

♪夏も近づく八十八夜～♪は、皆様御存じの茶摘みの歌ですね。八十八夜になると夏も近づいてきましたよと歌っています。立春から数えて88日目。今年、本日、5月1日が八十八夜に当たります。



この八十八夜は、農作業をする上でとても大切な日です。「八十八夜の別れ霜」といって、霜が降りなくなり、この日を目安に稲などの種まきをするそうです。また、この頃は、種が芽を出すのにちょうど良い気温でもあります。そして、だんだん気温も高くなり、植物がぐんと成長する夏を迎えるわけです。また、八十八を組み合わせると、「米」という字になるということで、この日を特に大事にするのだそうです。米づくりでは、秋になると台風が心配になってきますが、やはり、立春から数えて210日、220日は気を付けようと言われているそうです。天気予報がなかった時代の人たちの生活の知恵に感心させられます。と同時に、子どもたちにも、農作業に携わる人たちの知恵や御苦勞を伝えることが、「食」を大事に考える機会になるのではないかと思います。御家庭でも、ぜひ、語ってあげてください。

### ♪野にも山にも若葉が茂る♪

周りを見ますと、校庭の桜の木も、学校を取り囲む山々も、青々と若葉が茂ってきています。これから葉をしっかりと広げ、夏の太陽の光をいっぱいを受けて大きくなろうとしています。新年度一か月が経ち、学校での生活リズムも整ってきた頃です。連休明けには、運動会の練習も始まります。子どもたちの心も大きく成長するときです。

## 『頑張りの報酬』は？

皆様も御存じの「とんちの一休さん」。その一休さんにまつわるエピソードを一つ。

一休さんが、ある船頭の船に乗るとき、その船頭が言ったそうです。「そなたほどの高僧ならば、私に仏を見せてくれることができるでしょうな。」と。

一休さんは、「分かりました。それでは、精一杯力の限り船を漕いではくれまいか。」と答えたそうです。

船頭さんは、精も根も尽き果てるほど一生懸命船を漕いだそうです。そして、なぜだかとても幸せな気分になったということです。

つまり、仏を見ることができたのです。

「一生懸命、頑張れ！」私たちは、子どもによく言います。では、頑張ったことに対する報酬は何でしょう？

お小遣いをあげたり、何か欲しいものを買ってあげたりするということではありません。頑張ったことで子どもたちが得る報酬、それは「自信」ではないでしょうか。

適当に物事に取り組んでいたら、決して手に入れることのできない、自信なのです。頑張るときは、素直さ、意欲、粘り強さ、知恵、考える力、集中力が動員されます。これらの力の自覚が、自信をもたらします。一つ、御褒美として与えてあげるとすれば、頑張ったことを認め、褒めてあげることでしょう。そのことが、更に自身につながり、次への意欲につながっていくのだと思います。

自信をもった子どもは、明るく、人に優しく、思いやる余裕をもち、多くの仲間にも囲まれます。こうして、私が願う「七色にかがやく子ども」に近付きます。

日頃の学習も、運動会への取組も、虹っ子みんなが頑張る姿であって欲しいと願います。

ただ、頑張り過ぎると、体だけでなく、心も疲れがたまります。上手に休養を取ることも大切ですね。御家庭におかれましては、下校後のお子さんの様子に御留意いただきますようお願いいたします。

明後日の5月3日の憲法記念日、4日のみどりの日、5日のこどもの日、そして6日は振替休日と、4連休に入ります。これまでの一か月の疲れを癒し、来週からの学校生活に向かうためのエネルギーを補充するゴールデンウィークとなることを願っています。保護者の皆様、地域の皆様にとりましても、素敵な連休となりますように。

